

## 川越市上下水道事業経営戦略 審議会意見の反映状況等

資料 4

通し番号	審議会回	原案頁	表題等	意見、質問等	反映 原案 の 修正 ・	審議会での対応等	関係課	原案修正方針
1	1	6	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.2 施設の状況	【質問】 今後は管路の経年化が進み、更新していくのが大変であるというのが全国的な傾向とされる中、実務上どのように管路の更新をする場所を決めているのでしょうか。何か基準のようなものがあれば教えてください。	無	【回答】 配水のメインとなる重要な管路や、避難所といった重要な拠点に配水をする管などをある程度優先的に更新していきますが、基本的には古い管から順次更新していくものと考えています。また、水道事業ではアセットマネジメントという計画を策定しており、その中で管路については年間20kmずつ更新をすれば適正に管理できるものと考えています。	事業計画課	原案どおり
2	1	11	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 11ページ以降で類似団体平均が記載されていますが、これは7ページの中核市48事業体の平均値なのでしょうか。あるいは、ほかに抽出した事業体の平均値でしょうか。	無	【回答】 類似団体とは、総務省の調査において給水形態及び現在給水人口規模により区分されているものです。こちらは、川越市と同じ「末端給水事業かつ現在給水人口が30万人以上」の事業体の平均値です。中核市48事業体の平均値とは異なります。	総務企画課	原案どおり
3	1	4	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.1 事業の概要	【質問】 経営戦略には給水人口が記載されており、水道事業会計予算の資料では給水戸数が記載されていますが、なぜ使い分けるのでしょうか。	無	【回答】 給水人口及び給水戸数は、川越市全体の人口・戸数から地下水を利用している人口・戸数を引いて算出しています。水道事業会計予算の資料で給水戸数の方を記載しているのは、給水給水収益のもととなる給水契約が各家庭を単位としているからです。	総務企画課	原案どおり
4	1	6	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.2 施設の状況	【質問】 アセットマネジメントでは管路を20kmずつ更新していくという話ですが、経営戦略の説明では、更新しなければならぬものはますます増えていくということでした。この20kmという数字についても、これから増えていくものなのでしょうか。	無	【回答】 数字は20kmずつのままです。管路を集中的に整備した時期とそうでない時期がある関係で、更新需要については波があります。それを平準化した中で、毎年度20kmずつ更新をしていけば対応できると考えています。	事業計画課	原案どおり
5	1	11	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 経営比較分析表を活用した現状分析とありますが、類似団体の平均値と比較することは何か意味があるのでしょうか。類似団体の平均値より良ければそれで大丈夫というわけではないですよね。各指標に望ましい数値があり、それに向けて事業を進めていくのではないのでしょうか。	無	【回答】 経営比較分析表は、総務省が主導して平成26年度から各事業体が策定・公表しているものですが、望ましい数値というのは具体的には示されていません。しかし、類似団体の平均値と比較することで、ある程度は自らの現状を把握できると考えます。	総務企画課	原案どおり
6	1	17	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 管路更新率について、川越市の平成30年度の数値が特に低くなっているのはなぜでしょうか。	無	【回答】 平成30年度については、国道や鉄道の横断箇所といった非常に費用のかかる場所の工事を行ったこと、また、配水池といった水道施設の耐震化工事などに力を入れたことにより、その分更新した管路延長が少なくなったからです。	事業計画課	原案どおり
7	1	13	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 給水原価について、「評価」の所で「費用の約4割を県水購入費が占めていることから、購入単価が見直されると指標値に大きく影響します」と記載されていますが、過去に県水の購入単価が見直されたことはあるのでしょうか。	無	【回答】 県水の購入単価は何回か改定されています。現在、埼玉県は令和2年度まで単価は今のままであるとしています。ただし、埼玉県は令和3年度に運用を開始するハツ場ダムに何百億円も投資をしており、さらに、これから維持管理費も加わっていくため、その分が今後どのようになるのかは分かりません。おそらく今後は上がることになるのではないかと予想しています。	総務企画課	原案どおり
8	1	3	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.1 事業の概要	【質問】 「表2-1」について、一人あたりの給水量を計算しようと、記載されている「計画一日最大給水量」を「計画給水人口」で割って見たところ、昭和47年が0.42、昭和50年が0.49、昭和55年が0.49、平成4年が0.49、平成28年が0.35となりました。人口が増えているのに給水量が減っているのはなぜでしょうか。	無	【回答】 節水意識の向上や節水機器の普及などにより、水使用量が減少していることが要因です。	総務企画課	原案どおり

川越市上下水道事業経営戦略 審議会意見の反映状況等

資料 4

通し番号	審議会回	原案頁	表題等	意見、質問等	反映 原案の修正	審議会での対応等	関係課	原案修正方針
9	1	5	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.2 施設の状況	【質問】「表2-3」について、施設能力が165,500m <sup>3</sup> /日と記載されていますが、3ページの平成4年の計画一日最大給水量を見ると172,000m <sup>3</sup> と記載されています。施設能力より給水量が多くなってしまった場合はどのように対処したのでしょうか。	無	【回答】172,000m <sup>3</sup> というのは当時の計画量です。平成4年当時は仙波浄水場にもう一つ配水池を作るという拡張計画があったため、計画一日最大給水量は172,000m <sup>3</sup> と設定していました。しかし、その当時から水需要は伸びていなかったため、配水池を作る計画は凍結し、その分機械や電気設備の更新に力を入れてきたという経緯があります。	事業計画課	原案どおり
10	1	7	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.3 経営の状況	【質問】「図2-3」について、川越市の水道料金は中核市で4番目に安価ということですが、何か理由があるのでしょうか。とても良いことだと思いますが、他市と比べて何が違うのでしょうか。	無	【回答】様々な要素が考えられますが、県水単価が安いこと、また、職員の人数がほかの水道事業体平均と比較して約半数であることなどが大きいと考えています。	総務企画課	原案どおり
11	1	1	第1章 策定に当たって 1.経営戦略策定の趣旨	【意見】「昭和39年度の滝ノ下終末処理場の完成をもって」と記載されていますが、この処理場は埼玉県に移管済みであることを記載した方がよいのではないのでしょうか。後ろのページもそう記載をしています。	有	【回答】表現については調整させていただきます。	総務企画課	※表現の見直し (旧) 滝ノ下終末処理場 (修正案) 滝ノ下終末処理場(現 新河岸川上流水循環センター:平成18年4月に川越市から埼玉県に移管)
12	1	-	-	【意見】数字が掲載されている所で「～現在」と記載されているものは、表記が統一されていないので、少し考えなければならぬと思います。	有	【回答】表現については調整させていただきます。	総務企画課	※表現の見直し (修正) 「●●年度末」で表記を統一
13	1	18	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.7 事業の課題	【質問】昨年度策定した上下水道ビジョンでも事業の課題が挙げられていましたが、そちらとの整合性は取れているのでしょうか。	有	【回答】上下水道ビジョンの課題との整合性は取っています。	総務企画課 事業計画課	原案どおり
14	1	11, 27	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【意見】レーダーチャートは平成29年度の数字を使っていますが、年度については平成30年度で統一した方がよろしいのではないのでしょうか。平成30年度の数字を用いることができないなら、注釈などを入れておくのが良いと思います。	有	【回答】平成30年度の類似団体平均が示されるのは来年の1,2月頃であり、その数字を用いることが難しいため、レーダーチャートの数字については平成29年度のものを使わせていただきたいと思います。	総務企画課	※指摘事項の追記 水道事業、下水道事業とも本文に、「(本市は平成30年度の各指標値まで示しています。)」を追加。 レーダーチャートの下欄に、「※上図のレーダーチャートは、本市及び類似団体の直近の各指標値である平成29年度により比較しています。」を追加。
15	1	8	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.3 経営の状況	【質問】「図2-4」について、平成21,22年度あたりの給水人口と年間有収水量が極端にかい離していますが、何か特殊な要因があったのでしょうか。	無	【回答】おそらく東日本大震災の影響で人々の節水意識が高まり、水の供給が減少したのではないかと考えられます。	総務企画課	原案どおり
16	1	12	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【意見】経常収支比率や料金回収率などについては、水道料金が低ければ指標が悪く、高ければ指標が良くなるのですよね。そのため、川越市としてどういう数値を目指すかによって変わってくるものだと思います。単に類似団体と数値を比較するのではなく、川越市としての考え方もイメージしておかないといけません。これは、後に料金改定を行う際のポイントにもなります。	無	【回答】料金改定については、川越市は平成9年から約20年改定をしていないので、その影響は現在の指標にも大きく表れていると考えます。	総務企画課	原案どおり
17	1	18	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.7 事業の課題	【意見】アセットマネジメントでは、現在の水道料金水準では2022年から赤字となる見込みであり、料金水準のあり方について検討する必要があります。経営戦略18ページには「今後は適切な供給単価の検討が課題となります」という記載がありますが、経営戦略は3～5年ごとに見直していくのであれば、それぞれで料金水準を上げていくことについて明記していかなければならないのでは。	無	【回答】第4章以降で検討していきたいと考えています。	総務企画課	原案どおり

川越市上下水道事業経営戦略 審議会意見の反映状況等

資料 4

通し番号	審議会回	原案頁	表題等	意見、質問等	反映 原案の修正	審議会での対応等	関係課	原案修正方針
18	1	17	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 管路更新率について、「説明」の所に「毎年1%ずつ更新した場合、100年で全ての管路を更新する計算となる」と記載されていますが、川越市の場合は何年で更新できるのでしょうか。	無	【回答】 80年で全ての管路を更新することを目指しています。約80年で管が寿命を迎えると想定していますので、80年ごとに更新をしていければ、管が壊れないような状況で運用できると考えています。	事業計画課	原案どおり
19	1	17	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 年間20kmずつ管路を更新していくと、80年でほぼ全ての管路の更新が完了するという理解でよろしいでしょうか。	無	【回答】 全てが順調にいった場合の数字上の話としては、20kmずつ更新をすれば年間1.25%の更新率となりますので、単純計算をして80年で完了することになります。	事業計画課	原案どおり
20	1	-	-	【質問】 急激な人口減少が予測される状況で、行政のほかの計画とも整合性を図りながら、管をどこまでつないでおくのかというのは相当頭を悩ませる部分だと思います。その部分について、ほかの部署と連携を図りながら、今後計画に盛り込むということはあるのでしょうか。	無	【回答】 給水というのは各家庭まで水を供給しなければならないため、例えば川越市の端に家が1軒しかないとしても、そこにも供給せざるをえません。自治体によってはそれをやめてしまい、給水車などによる供給を行っている所もあるようですが、川越市は基本的にやめることはできないと思います。では、人口減少に対して川越市はどう対応するかというと、給水量の減少に応じて、水道施設や管路のダウンサイジングを進めるしかないのではないかと考えます。ただし、今後10年間では川越市の人口は極端に減少しないと思われるため、10年間の中長期については、ほぼ現状のまま済むのではないかと考えます。	事業計画課	原案どおり
21	1	-	-	【意見】 長いスパンで考えると、川越市の中でもコンパクトシティの考え方をもち、水道事業としてもあまり広範囲な事業運営は難しいということを情報提供しつつ、コンパクトシティの考え方を盛り込んでいかなければ、何十年後も今の状況は変わりません。そして、費用負担は、結局利用者にかかってしまうということになると思います。今述べたようなことは、計画の中に盛り込んで良いのではないのでしょうか。そういったことを今考えておかないと、何十年も先の人々が困るような状況になるため、意見として申し上げさせていただきます。	無	【回答】 (意見)	総務企画課 事業計画課	原案どおり
22	1	-	-	【質問】 スマートメーターを様々な事業者が採用していると聞いています。このスマートメーター導入の話はどのような状況でしょうか。	有	【回答】 スマートメーターについては、給水の状況もリアルタイムで把握できますし、人件費の削減などにもつながるため、川越市としても興味を持っており、現在民間事業者の動向を注視している状況です。	給水サービス課	第5章 投資・財政計画 1 水道事業 1.5 投資・財政計画に未反映の取組や今後検討予定の取組 「新技術の活用」に反映。
23	1	16,17	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 管路更新率は類似団体平均値よりも高いため、川越市が精力的に更新を行っているような印象を受けるが、精力的に更新を行っても、管路経年化率や有形固定資産減価償却率はどんどん悪くなっています。数値化すると、川越市は精力的に更新を行っているにも関わらず、指標だけ見れば全然足りないということが言えるのですね。これについてはどうお考えでしょうか。	無	【回答】 管路の更新需要を平準化し、適正に管理していくには管路を20kmずつ更新していくことが必要です。一方で、大きな施設の更新等も進めなければならず、こちらについては管と違って多額の費用がかかります。更新について理想は持っているものの、現実には中々進められていないというのが現状です。	事業計画課	原案どおり
24	1	16,17	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【意見】 こういう指標だけ見ると、どうしても矛盾が出てくる。ある指標を見ると川越市の状況は良いように見えるが、一方の指標を見ると意外と進んでいないように見える。ほかの事業者についても、管の更新は意外と進んでいないが、経年化率は川越市ほど悪くないように見えるという。いずれにせよ、どういった投資をしていくかにもよりますが、問題は先送りにはいけないと感じます。	無	【回答】 管路経年化率について、川越市は高度経済成長期に整備した管路が更新の時期を迎えるため、これから数字はもっと上がってくると思います。管路の更新については精力的に行っていますが、更新需要に追いついていないというのが現状です。	事業計画課	原案どおり

川越市上下水道事業経営戦略 審議会意見の反映状況等

資料 4

通し番号	審議会回	原案頁	表題等	意見、質問等	反映 原案 の 修正 ・	審議会での対応等	関係課	原案修正方針
25	1	9	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.4 組織の状況	【質問】「平成25年度から営業業務については外部へ包括委託を実施している」と記載されていますが、平成25年度から実施した包括委託について、総括をお聞かせください。	無	【回答】 包括業務委託については、主に料金徴収業務を委託し、民間のノウハウを活用することで、有収率の向上にもつながっていることは良い点であると思っています。総括としては、今まで職員が行っていた業務を包括して民間事業者へ委託することで、委託費は増加しているものの、その分職員の人件費は減少しており、効率的な事業運営につながっていると考えます。	給水サービス課	原案どおり
26	1	11	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【意見】 11ページ以降に様々な指標が掲載されている中で「安全性に関する指標」というのがありますよね。「安全性」というと、水道事業の場合は水質等の話もありますが、この指標の内容については基本的に経営に関することなので、例えば「経営の安全性」といったように前に何かつけた表現にした方が良いと思いますが、いかがでしょうか。	有	【回答】 表現を調整したいと思います。	総務企画課	※表現の見直し  (旧) 安全性 (修正案) 健全性
27	2	20	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.1 事業の概要	【質問】 図2-9で事業計画区域と行政区画が少しずれているという話がありました。川越市の中から石井地区と日高地区を除いて、鶴ヶ島市の一部が入ってくるということなのですが、今回のこの経営戦略を考える際には、鶴ヶ島市分については、川越市と同様の施策をそのまま適用するため特別意識する必要はないし、逆に石井地区と日高地区については事業計画区域に入っていないが、それについても考慮しなくてよいということでしょうか。	無	【回答】 そのとおりです。	総務企画課	原案どおり
28	2	34	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.7 事業の課題	【意見】 収益性、効率性、安全性の比率だけを見るとよさそうに見えるけれど、やらなければならない宿題が沢山あるところをまず掴んで、それに対して収益性がよいのかどうかという捉え方をしないと、審議会の意味がありません。事業の課題については、水道も下水道も、もう一度きちんと把握すべきだと思います。	有	【回答】 施設の老朽化が進んでいますので、そういう部分を踏まえて、今後投資・財政計画を考えていきたいと思っています。次回以降に示す投資・財政計画には、そういったことを盛り込んだ形で皆さんに検討していただきたいと考えております。	総務企画課	※通し番号34と関連。  (修正) 水道事業及び下水道事業の「1. 7 事業の課題」を修正。
29	2	25	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.4 組織の状況	【質問】 資本勘定職員が平成21年度の32人から20人に減少したという話がありました。人員がこれだけ急激に減ったことで業務に支障が生じたり、職員に過剰な負担が生じたりしていないのでしょうか。また、時間外労働について、予算には毎年度、前年度と同じ14,125,000円が計上されている状況について、御説明を簡単にいただければと思います。	無	【回答】 資本勘定職員数が減少していることについては、下水道を拡張していく範囲が以前と比べ減ってきていることから、人員が足りているかどうかという問題はありますが、なんとかやっていけるという状況です。また、時間外労働の関係ですが、上下水道局は公営企業のため労働基準法の適用を受けておりますので、残業時間の管理や組合との交渉についても適正に行っております。	総務企画課	原案どおり
30	2	26	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.5 これまでの主な経営健全化の取組	【質問】 26ページの「これまでの主な経営健全化の取組」の中に企業債というものが出てきています。私は、企業債について全く分からないのですが、川越市の場合は、どのような企業にどのような形で募集をかけているのですか。もし差支えなければ、企業名を教えてください。	無	【回答】 株式会社であれば株券を発行することによって資金の調達ができますが、我々公営企業は株券を発行することが出来ません。したがって、国から借金をして資金を得るような形を取っております。これを企業債と言います。	総務企画課	原案どおり
31	2	-	-	【意見】 いずれ老朽化によって道路が陥没するとか、下水道であれば、汚い水がそのまま流れていってしまつて地盤汚染につながるとか、様々な影響が想定されます。上下水道局としては、今こういう問題があって、今のままの使用料金でいくと、いずれこのようなことが起こりますよというような注意喚起をもっとしないといけないのではないかと気がしております。そういったことを頭の中に入れてながら、報告の取りまとめをしていくと、問題を早く外に出すという意味でよいのかなと思いました。	無	【回答】 第2章は現状とこれまでの経過を示していきまして、今後これを踏まえてどうするかというのは、次の投資・財政計画の方で考えていかなければならないと思っています。そのうえでまた皆さんに検討していただければと思います。	総務企画課	原案どおり

川越市上下水道事業経営戦略 審議会意見の反映状況等

資料 4

通し番号	審議会回	原案頁	表題等	意見、質問等	反映 原案の修正	審議会での対応等	関係課	原案修正方針
32	2	34	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.7 事業の課題	【質問】 34ページの効率性のところに、本市は有収率が70%前後で推移しているとあります。有収率の低下は不明水の混入が原因であると記載されていますが、これまでに対象区域を特定できたことがあるのかどうか、また、対策した実績はあるのか教えていただきたいです。	無	【回答】 有収水量と埼玉県で実際に処理した汚水量の差が、エリアごとにある程度分かれますので、その差が大きい場所の調査をして、そこを重点的に対策しています。ただしそれは、本当にピンポイントで行っているものでして、今後は計画的に行えるよう、先程お話ししたような管の流入量に加えて、マンホールポンプがどのような形で稼働して、どのくらいの量を吐き出しているのかという情報を基に、エリアの絞り込みの作業を行っている最中です。	事業計画課	原案どおり
33	2	34	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.7 事業の課題	【質問】 不明水対策を計画的に進めるといっていますが、いつまでにという目標は設定されているのですか。	無	【回答】 下水道は、管を特定するのが非常に難しい状態であり、一気に有収率を上げるのは難しいと思っています。ビジョンの中では、10年後に80%を目指すというような形で考えております。	事業計画課	原案どおり
34	2	-	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業	【意見】 目次には「第2章 事業の現状と課題」とありますが、課題はほとんど把握されていないですね。現状に対して何が問題になっているのか、それぞれ問題はあるはずなのに、課題が書いていないのが1番残念です。「事業の現状と課題」という表題なのだから、全部課題を意識した文章にしなければならないと思います。	有	(意見)	総務企画課	※通し番号28と関連。  (修正) 水道事業及び下水道事業の「1. 7 事業の課題」を修正。
35	2	19	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.1 事業の概要	【質問】 19ページ上から5行目に「未普及対策」と記載がありますが、この未普及対策というのはどのような内容なのかお示しいただきたい。まだ普及していないという現状に対する分析や対応というのは特に記載されないのでしょうか。	無	【回答】 未普及対策は、公共下水道がまだ入っていないエリアへ拡張をしていくような事業です。具体的には、認可区域になっているところの整備を進める事業でして、そこから先はまた別の次元の話になってきてしまうと思います。今後10年間は認可区域の中を整備するという考え方の中で経営戦略は出来ていますが、そこからさらに整備を広げるとか、そういった考えはここには反映されておりません。	事業計画課	原案どおり
36	2	19	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.1 事業の概要	【質問】 下水道事業の年報などの資料には整備率の推移等が記載されていますが、未整備地域の方からは下水道が早く来ないのかという声が上がってきています。経営戦略の中で、未普及対策についても下水道事業の課題の1つに入ってくるのではと思いましたが、そのようにはならないのでしょうか。	無	【回答】 経営戦略は、実際に行っている事業や行うことが明確である事業を整理して、費用がどの程度かかるか、経営的に問題ないかということ判断しているものなので、あえてここで、どのくらいのエリアを広げますとか、このように拡張していきますとは記載していません。経営するうえでの支出ということで、費用として把握して整理をしていくというような形になっています。	事業計画課	原案どおり
37	2	19	第2章 事業の現状と課題 2.下水道事業 2.1 事業の概要	【意見】 もし可能であれば、整備の状況等を記載していただければと思います。経営戦略原案の4ページには、水道事業の現況ということで普及率99.9%というような記載がありますよね。下水道の整備状況を現況として示すことは可能ではないかと思うのですが。	有	【回答】 普及率等の下水道の現況については、20ページに記載しております。面積の項目を追記するかどうか、検討していきたいと思います。	総務企画課	※表現の見直し 第2章 事業の現状と課題 2 下水道事業 2.1 事業の概要の表2-6に 「全体計画面積 6,363ha」 「現在整備面積 4,104ha」 「整備率 64.5%」 の追記
38	2	11,27	第2章 事業の現状と課題 1.水道事業 1.6 経営比較分析表を活用した現状分析  2.下水道事業 2.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 11ページの料金回収率と、27ページの経費回収率についてです。それぞれ水道と下水道なので違いはあると思いますが、水道は料金回収率が類似団体の平均値よりも低い一方で、下水道の方は若干よいという状態を、どのように理解すればよいか教えていただければと思います。	無	【回答】 水道の方は、高い水を安く売っているような形、売れば売れば赤字になっていくような形です。下水道の方は、ある程度収益が上がるような形になっておりますので、料金回収率と、経費回収率はだいぶ違っております。	総務企画課	原案どおり

川越市上下水道事業経営戦略 審議会意見の反映状況等

資料 4

通し番号	審議会回	原案頁	表題等	意見、質問等	反映 原案 の 修正 ・	審議会での対応等	関係課	原案修正方針
39	2	29	第2章 事業の現状と課題 2. 下水道事業 2.6 経営比較分析表を活用した現状分析	【質問】 29ページの業務指標の中の汚水処理原価のところ、評価に「スケールメリットにより流域下水道の処理費用が安価なため」と書いてあります。流域下水道の処理費用が現在安価だとしても、それが変わる可能性があるという風に受け止めています。どのような動向を想定してらっしゃるのかを教えてくださいたいと思います。	無	【回答】 埼玉県荒川右岸の処理場で処理していますので、処理単価が上がればこの部分は悪くなりますし、またそれが使用料に響いてくると思っております。設備投資等様々な要因で処理単価が上がる可能性はありますが、ここ数年ぐらいいは変える予定はないということです。	総務企画課	原案どおり
40	2	-	第2章 事業の現状と課題 2. 下水道事業	【質問】 合流式と分流式があると思うのですが、大体旧市街地では合流式で、そのほかのところは分流式になっていますよね。管の更新のときに、合流式を分流式に変えるようなお考えはあるのでしょうか。今、雨水と汚水の話が出ましたが、この合流式ですと雨水も汚水も一緒に溝ノ下の方で一時的に処理されるわけですよね。やはり分流式の方が費用はかからないのでしょうか。	無	【回答】 道路の中にはガス、水道、場所によっては電話、電気が入っていて、下水道管を分けて入れられるだけのスペースがないことや、今の下水道管を生かしながらもう1本別の管を入れて交換するような形になることを考えますと、正直に申し上げて厳しいのではないかと思います。分流式になれば処理費はかかりますが、合流式ですと雨水も汚水と一緒に流れて行きますので、処理費用の対象となります。	事業計画課	原案どおり
41	2	-	第3章 将来の事業環境	【質問】 人口予測や水需要の予測、料金収入の予測ということで、入ってくる方はこれで分かりますが、出ていく方はどのように考えたらよいのでしょうか。また、新たに章が加筆されるのでしょうか。	無	【回答】 投資の関係は、5章以降に投資・財政計画として明記しますので、そちらの方で検討していただくような形になっております。	総務企画課	原案どおり
42	2	37	第3章 将来の事業環境 1. 水道事業 1.4 組織の見直し 2. 水道事業 2.4 組織の見直し	【質問】 水道、下水道ともに組織の見直しのところについては同じ表現になっていますが、これは今後、最終的には何か書き加えていく予定があるのでしょうか。また、民間委託の導入について、川越市の上下水道局ではどのように検討しているのか、お示しいただければと思います。	無	【回答】 組織の見直しの関係ですが、今後事業をどのように進めるかによって職員を増やす必要性も出てくると思いますので、投資・財政計画の方で考えたうえで検討していきたいと思っております。それから民間委託の部分ですが、川越市としては、水道事業全体を民間委託するのではなく、窓口業務や料金収入など部分的に包括業務委託を行っています。また、施設の維持管理等についても、可能なものは民間委託していこうということで検討しております。	総務企画課	原案どおり
43	2	36~39	第3章 将来の事業環境	【質問】 予測のグラフを見ていただくと、水道は人口と料金収入とが同じ比率で減っていく一方で、下水道は人口よりも使用料収入の減り幅が1%くらい大きくなっています。この差はなぜ生じたか教えてくださいたいのですが。	無	【回答】 水道の人口は2%減、有収水量と料金収入は2.6%減の予測となっております。下水道の人口は0.7%減、有収水量と使用料収入は1.7%減の予測となっておりますので、人口ではなく、どちらも有収水量と収入が同一の減り幅となっております。また、水道の方はこれ以上増える見込みがありませんが、下水道は現在も拡張しておりますので、使用する方がいづらか増えていくと考えられることから、このような形になっております。	総務企画課	原案どおり
44	2	35	第3章 将来の事業環境 1. 水道事業 1.1 給水人口の予測	【質問】 今グラフにあるのは人口だけですが、企業なども水を使いますよね。そういったものはどのように見ているのでしょうか。会社も水の使用量がだんだん減っていくのではないかと、人口だけで見ると見誤るような気がするのですが。	無	【回答】 口径25mmの一部とそれ以上の口径を事業系と想定しているのですが、過去の統計を取ると、件数は増えていますが、使用量は減っています。事業系は過去の統計を見てはいますが、事業者数は増えているのに使用量は減っているという、どこに着地点を設けるのか難しい状態です。今後検討しまして、次回示すことが出来るようにします。	総務企画課	原案どおり
45								